

解説「一九三三（昭和八）年の所感五点」について

松
沢
弘
陽

ここに紹介するのは、東京女子大学丸山眞男文庫所蔵で、これまで知られなかった丸山眞男の旧制第一高等学校最後の時期に記された所感（資料番号五一七の一―五。資料番号五一七―五は、この時期に書かれたと思われるが、日時は確かではない）五点である。内容は同時代の政治・社会の批評とそれに対する自己の政治的立場の表明、さらには本富士警察署による逮捕の経験にわたっており、政治的激動の時期における一人の高校生の態度を渦中で記録した資料として興味深い。

資料番号五一七の一―四の所感は、全て銀座伊東屋製と印刷された一五字二〇行の原稿用紙に、五一七の五はゼネラル5と印刷された二〇字二〇行の原稿用紙に記されている。

丸山によって抹消されているが、当時の丸山の考えを知る上で重要と思われる部分は◇で括って復元した。文字の脱落やまちがいにについては、適宜□で補ったり、「ママ」と記して、示した。

手稿の整理は山辺春彦と松沢が協力して行ない、注と解説は松沢が担当した。